

建築士くまもと



No. 107



光原 摂子

■采建築設計室 代表

阿蘇支部 事務局

阿蘇と仕事と子育てと

私が地元である阿蘇で設計事務所を始めて、ちょうど15年になります。(登録の更新で気が付きました) 建築を仕事とし始めて、20年です。いまだに新しい物件の依頼の度に勉強です。15年前より阿蘇支部の活動に参加させていただいておりますが、今は事務局ということで、企画する立場となっています。

私の15年は結婚、そして4人の子供を授かるという15年もあります。いつも、仕事と子供は直結です。現在、6年・4年・1年・2歳の子供がいて、今もこうして仕事が出来るのは、まず「子連れでもいいですか」と言って仕事を受けるのを寛容に受け止めてくださるお客様があるからだと思います。2歳くらいまでは、その辺をウロウロさせて打合せ、現場ではおんぶ。もちろん、近所の仕事しか受けませんが、よく続かせ

てもらっていると、感謝しています。次に建築士会の活動ができるのは、阿蘇支部の皆様のおかげだと思います。懇親会などは、ほぼ子連れです。建築に興味のある長男は「一番難しかった物件は?」などと、質問したりしておりますのに、真剣に答えて下さいます。より、建築が好きになっているのではないかと思っています。

阿蘇支部では、恒例行事として木工教室と講習会をしております。講習会は今年1月20日に行いました。講師は地質判定士の田尻先生をお招きしました。今回は初めての試みで阿蘇市の広報に掲載して、一般の方の参加も募りました。6名の参加があり、有意義だとおっしゃっていただきました。



2017年1月20日講習会の様子

建築士という技術専門職集団の特異性をこういう形で外に発信するいい機会でした。昨年は熊本大学の地震学の先生をお招きしました。その3か月後熊本地震が起こり、不思議なものを感じております。こうした講習会の案内に対し

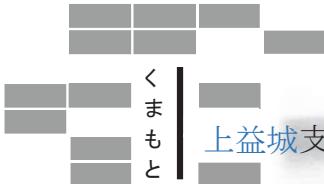
て関心が高く、参加される士会員が多いことは事務局としては嬉しいことです。木工教室も6年前から始まり、恒例となりました。熊本県林務課の協力も得て、阿蘇郡市的小学校で開催しています。この教室で初めてのこぎりやかなづちを触る子供が多いことに、驚きました。しかし、要領がわかると集中して一人で作り上げる子供もいて将来の建築の担い手になってくれるのではと、期待しております。



出来上がった椅子を持つ子供

水害・噴火・地震と度重なる自然災害がある阿蘇で、建築士として何ができるか、ということを今回の地震で考えさせられました。家族の今日の飲み物食べ物を確保しなくてはならない中、出来たことは半日程度、応急危険度判定に回ることだけでした。これも、もちろん子連れです。お兄ちゃんおねえちゃんが子守をしてくれました。私に今できる精一杯でこの阿蘇で暮らしておられる方に、寄り添っていきたいです。

建築士くまもと



上益城支部から



上益城支部長 永田 齊

■ (有) 永田工務店
建築設計事務所
被災地の中で建築士

その日、叔父の告別式が終わり、午後9時ごろ帰宅。一瞬で生まれ育った町が4月14日、16日の2回の大きな地震により一変してしまいました。

居間でくつろいでいると突然の揺れに襲われ本棚、家具、食器棚、家の中のあらゆるものが散乱しましたが家族に怪我がなかっただけでも不幸中の幸いでした。



ニュースなどで益城町が想定外の震度7を2回も経験。おまけに1回目が前震。そして本震。今までの常識では考えられない事態がま

さか自分の廻りで起きててしまったことが今でも信じられません。



それから2週間、余震に怯えながら車中泊を続ける生活。電気、水道等のライフラインが止まり、便利すぎる生活が一変しました。その間 親戚、友人、会社関係などいろいろなところから救援物資をいただき、感謝しております。建築士とは被災者の一面、建築に係るものとして、公共の建物、また御客様を優先しなければならない立場にあり、町の要請に答えるため、応急判定調査に上益城支部会員の募集を募り被災者でありながら調査を行なってもらい、述べ500棟ほどの建物を調査しました。そこには「この先どうすればいいのか」と途方に暮れておられる姿が今でも思い出されます。

しかし、何よりも復旧が先決です。余震が続くながらも屋根に登りシートを被せてまわるのが当面の仕事です。携帯の地震速報のブザーが鳴り、屋根に掴まってやり過ごした恐怖は今も忘れられません。忙しく復旧作業をしていく中、

士会の県大会（宇城大会）で宇城方面も被災家屋がたくさん見受けられましたがその中で大会を運営された宇城支部の会員の皆様の努力に頭が下がります。本当にご苦労様でした。

また、阿蘇方面も阿蘇神社、阿蘇大橋といった有名な場所が被災に遭い、西原村においても一集落が存続の危機にあるといわれています。我が上益城も甚大な被害を受けました。特に益城町が家屋他の被害が甚大です。報道されているより、交通、インフラはもとより田畠農作物の被害も深刻です。御船（特に御船インター付近）で私が住んでいる地域も地震が起きると揺れが強いと昔から言われてきました。布田川、日奈久断層の真上に位置している為です。



河川被害も酷く緑川、秋津川、御船川、その川に架かる橋が通行止め、復旧工事の目途もたたない状況が続いています。現在御船川両岸の堤防を3kmにわたり改修している状況です。

また山都町へ行く国道445号

建築士くまもと

線も大規模ながけ崩れが発生し、迂回路通行となっています。

また、上益城支部の事務局を置いていた上益城職業訓練校も全壊判定の為、やむなく解体し、改築を急いでいます。



被災した訓練校（士会事務局）

さらに神社仏閣もかなり被害を受け近くの神社も屋根が傾く被害に遭い、現在我社で屋根をジャッキアップし元の位置に戻す改修工事を行っています。



ジャッキアップ中の神社の屋根

なお、本来避難場所として活用しなければならない益城、御船両町のスポーツセンターが天井崩落の為使用不能に陥り、避難場所として一時使えないという事態が発生。



益城町スポーツセンター玄関前

また益城、宇土、大津の庁舎が倒壊の危機にさらされたことで被災状況等の把握に混乱を生じたことで、機能を充分果たせなかつたという事態を起こしてしまったことが今後の大きな課題だと認識させられました。



ただ、昨日益城町の復興仮設店舗にお邪魔して、店主の方に「まだまだだけど、ちょっとづつ前に進まなんたい。」と言われたことに住民の皆さんへの復興への意気込みと熱意を感じさせられました



仮設店舗内の様子（食堂、雑貨、衣料品店等が営業されています）

また、テクノの復興住宅のモデルハウスの相談者も多数こられるという話を伺い安心しています。

今後、建築に携わる技術者として熊本の復興に係り、また、一被災者として今後このような災害が起きた場合に被災者側に立った経験を生かしたアドバイスが出来たらと思います。さらに安全で快適な居住空間を提供していくことが我々建築士の務めだと思います。

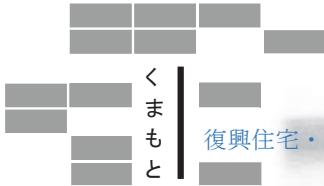
最後に、この地震にあたり県・町はもとより、全国各地の行政、ボランティアの方々には被災地にいち早く駆けつけていただき感謝申し上げますと共に各支部からの温かいお言葉を頂戴致しましたことに感謝申し上げます。

TOPICS情報

第66回 通常総会開催のお知らせ

日時：平成29年6月16日（金） 15:00～

場所：KKRホテル熊本



復興住宅・住宅支援推進特別委員会から



廣田清隆

廣田建築・都市設計工房 代表

震災からの復興に向けて ～建築士に期待されること～

これまでのこと

平成 28 年 4 月 14 日 16 日に発生した益城町を震源とする震度 7 の巨大地震は熊本県の広い地域に甚大な被害をもたらしました。私は 4 月 16 日早朝、県からの要請で益城町に入り応急危険度判定を行いました。

益城町中心部は木造住宅がいたるところで倒壊し、道路も地割れ、陥没がいたるところで起きていました。まるで映画で観る戦場を歩いているようでした。

ライフラインが寸断され、余震におびえ、だれもが先の見えない不安に耐えているようでした。

それからほぼひと月、県下各地の被災地を回りました。

その頃、建築家の山本理顕さんから連絡がありました。“避難所の生活改善のため協力したい”という申し出でした。その後何度も熊本に足を運ばれ、益城総合体育館

の生活改善に取り組んで頂きました。



4/17 益城町役場屋上より



益城体育館に女性専用コーナーを設置しましたまた、住まいのダイヤル現場相談、被災歴史的建造物調査、住家の被害認定（罹災証明）調査、文化財ドクター派遣事業などに参加しました。

これらのことでの分かったことがあります。

こうした緊急時にこそ私たち建築士の専門知識（技術）が求められ、それを生かした社会貢献ができるということです。

一般の人は建築士の判断を求めているのです。同じ結果だったとしても役場職員の判断と建築士の判断では重みが全く違うということが判りました。

震災からやがて 1 年を迎えると

しています。解体も進み、空地が目立ってきました。

これから建築士の役割りますます重要になってくるでしょう。

現在のこと

平成 28 年 7 月 20 日に「熊本県地域型復興住宅推進協議会」が発足しました。県内の建設関係 12 団体と県、住宅支援機構で構成された団体です。もちろん建築士会も主要メンバーです。

私は、協議会事業に対応するため建築士会に設けられる特別委員会の委員長に指名されました。

協議会では被災者が住宅を再建するための手引書としてガイドブックを作成することが決まっていました。

そこで特別委員会では、ガイドブックに載せる住宅のモデルプランのワークショップを開催して、広く士会員から案を募ることにしました。

ワークショップの講師は、三井所連合会長にお願いしました。



9 月 17 日、24 日の 2 回開催したワークショップには、30 代 40 代

TOPICS 情報

平成 29 年 12 月 8 日 全国大会京都大会開催予定

開催予定場所：みやこメッセ（京都市勧業館）

<http://www.miakomesse.jp/access/>

の若手建築士が17名参加しました。1日目は三井所会長からのレクチャーとグループ分け、取り組む復興住宅の分類と担当決めを行い、グループごとにプランを議論しながらまとめる作業を行いました。



2日目はまとめたプランのプレゼンテーションと質疑応答。かなり白熱したワークショップになりました。



この時に提案された4プランは、建築士会・復興の家グループという地元4商社と設立したグループと共同でガイドブックに掲載しています。

それから、復興モデル住宅の建設と住宅相談、住宅支援も行いました。現在も継続中です。

県が、益城テクノ仮設団地内にモデル住宅を3棟建てる計画を発表し、建てる生産者グループを募集

しました。1棟目はすでに決まっていましたので2棟目に建築士会のグループで応募しました。審査で採用が決まり平成29年1月14日にオープンしました。



平成29年1月14日モデル住宅オープン
同時に住宅相談、支援業務も始めました。相談員、支援員を募集したところ約50名の方から登録の申し込みをいただきました。
モデル住宅には連日多くの来場者があります。休日には100組を超えることもあります。
現在は、土日祭日に2名の相談員が相談業務を行っています。



これからのこと

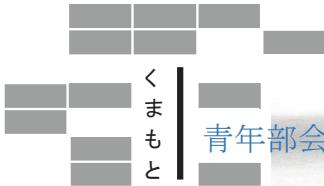
震災から1年が経ちました。仮設住宅に暮らす人は、みなしふ設を合わせると約17000世帯になります。

住宅相談を受けていて感じることは、将来に対する不安です。住むところを早く決めて安心したいという祈りに近い心情です。私たち建築士は今こそそれに応えなければなりません。

また、残念ながら被災者を食い物にするような悪質な業者とのトラブルも増加することが予想されます。そういう事態にも対応するため建築士会では県弁護士会と協力協定を結ぶため話し合いを続けてきました。平成29年度から合同の相談会、研修会またトラブルに対してはお互いの会員を推薦するような制度も検討しています。

ヘリテージマネージャー会議は、文化財ドクター派遣事業の取り組とともに被災文化財建造物の修復への取り組みも行っています。特に未指定の文化財に対して公的な補助を受ける道がないか模索が続いているます。

これからますます建築士に求められる分野は多岐にわたり、それに応えられる知識と技術の研鑽が必要です。県民から頼りにされる建築士を目指してこれからも頑張りたいと思っています。



田中 章友

■株式会社産絃設計

全国大会「大分大会」に参加して

昨年 10 月 21 日（土）に第 59 回建築士会全国大会「大分大会」が開催されました。

本大会および大会前日の「第 7 回全国建築士フォーラム」に参加しましたので、報告いたします。

■いざ大分、別府へ

10 月 22 日（金）、青年部会メンバーと車で大分県別府市へ。会場は磯崎新設計の別府国際コンベンションセンター、通称ビーコンプラザ。会場への道中、別府駅を通過、「別府観光の父」油屋熊八の像がお出迎えしてくれました。



別府市の観光に尽力した油屋熊八さん



大会会場となったビーコンプラザ併設のタワーには 300 円で登れます

■全国建築士フォーラム

本フォーラムは、全国大会の前に前日入りする青年建築士が集まって情報を共用しようという趣旨の下に開催されています。

例年行われていた地域実践活動発表は本大会内の青年委員会セッションへと移行されたため、今年は「魅力ある未来社会へ～行動しなければ何も変わらない」と題し、2 部構成の新しいかたちで行われました。



全国各地から 231 名の青年建築士が参加

第一部は、「各ブロック青年協議会で掲げた目標の成果発表・報告会」。私たちが所属する九州ブロック協議会では、会員増強を目的に

「パッショングラフたながる kizuna in 鹿児島」に新規会員 or イベント初参加者を 30 名以上募る！という目標を掲げていました。その達成度は 21 名参加の 70%、将来的な会員候補の学生参加者を含めると 96% という結果でした。また、九州ブロックがどんな活動を行っているか、メンバー統一のくまモン Tシャツをまとって、全国の青年建築士に PR してきました。会場では笑いが起こり、なかなか良い報告が出来たのではないかと思います。



発表で使用したくまモンTシャツ

第二部は、熊本地震を受け「災害時、私たち建築士にできること」と題し、パネルディスカッションおよびテーブルディスカッションが行われました。

まずは、前青年部会長の甲斐健一さんから熊本地震の報告が行われました。パネルディスカッションでは甲斐さんに加え、東日本大震災、阪神・淡路大震災を経験した建築士の 3 名で、当時の状況、現在の状況、今後はどうすべきなのか意見交換がなされました。



パネルディスカッションの様子

続くテーブルディスカッションでは熊本地震を経験した身として体験談を話させて頂きましたが、他県の建築士からは実践している防災訓練や連絡体制づくりの話が飛び交い、地震に対する日頃からの備え、意識の高さに驚かされました。熊本がいかに大地震に対する意識が低かったか改めて痛感させられました。

■第59回建築士会全国大会

いよいよ大会当日。今年度から本大会の青年委員会セッションとしてプログラムに組み込まれた「地域実践活動報告」に参加しました。



地域実践活動報告の様子、282名が参加

全国7ブロックの代表となった地域実践活動だけあって非常に刺激を受けるものばかりでした。発表の後は気になった報告の詳細を聞くことができる場が設けてあります。長野県での取組を拝聴しましたが、ブロック大会の前に県内で予選があるとこのことで、驚きです。

参加者の投票により最優秀賞となったのは近畿ブロック代表、京都の「路地と小路の銘板取付け」。古い建物と小道が多く残る京都、火事など防災対策として名前がない小さい道に地域の人たちと名前を付け、さらに看板を取り付けることで、通報しやすい環境を作るという古都ならではの活動でした。

各ブロックの発表を通じて感じたのは、将来的に建築への道へすすむ子供を育てるための活動が各地で活発に行われているということです。熊本でも・・・と話には出ますが、なかなか実施に至っていない状況なので、今後の青年部会の活動を考える上で有用なセッションだったと思います。

■大会を終えて・・・

全国大会では、紹介したセッション以外にも様々なセッションやフォーラム、記念講演、大会式典、大懇親会等があり、気になるもの全て参加するためには体が3~4

つないと無理なほど盛りだくさんな内容です。非常に勉強になり、刺激を受けることができます。熊本からも100名の参加がありました。まだまだ忙しい状況が続くかと思いますが、気になられた方は次回参加されてはいかかでしょうか。開催地は・・・京都です！



大会看板の前で記念撮影

■さいごに・・・

青年部会では熊本地震のあと、様々な支援活動に関わり、多くの支援団体と出会ってきました。その中でひとつ団体を紹介させていただきます。支援金の募集も行っていますので、活動に賛同いただける方はご協力お願ひいたします。

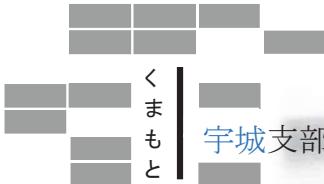
くまもと新町古町復興プロジェクト

新町古町エリアの町屋を維持・再建させていくことを目的に活動。支援金は全て新町古町の復興及び関連のイベントで使用しています。

支援金受付口座

肥後銀行 新町支店 普通口座 1490724
クマモトシンマチフルマチフッコウ
プロジェクト



くま
もと

宇城支部から



伊豫 崇浩

■宇城支部青年部会長

宇城ソフトボール大会で復興を盛り上げたい！

一昨年、宇城市支部は設立40周年を迎えることが出来ました。

宇城大会はこれを記念し、荒尾大会の際、開催地の立候補をさせて頂き、昨秋開催に至りました。次は自分達の番と意識しながら、…お正月はのんびり過ごし、いつの間にか、お花見の季節に。あーそろそろ打合せでもしよかねえ…と思った矢先に熊本地震が発災。

県内一円に甚大な被害を及ぼし、宇城地区も多数の建物に被害がありました。各支部員は公私に渡り多忙を極め、先の見えない復旧・復興業務に、このまま宇城でソフトボール大会を開催出来るのかという選択を迫られました

開催の是非、余震が続くGW明けの支部総会にて、「宇城から復興を盛り上げて行こう」という想いから開催を決定しました。

ここから月に数回の会議を行いながら準備を進めていきます。



■ミーティングの様子

当初計画していたグラウンドは避難所となつたため使用不能。宿泊施設の被害が大きく宿泊斡旋の断念など地震による影響も受けつつ、弁当の手配、用具の確保、交通整理、前夜祭の余興、ナイトマップの段取りなど、取り組み始めると打ち合わせることは山のようにありました。前大会を経験された先輩方や、各部員が力合わせることで、少しずつ進捗してきました。

前夜祭当日は、昼間から会場の設営を開始し、グラウンドのライン引きはトランシットを用い、建築士こだわりのダイヤモンドを描きました。資材搬入・設営から案内板の作成と慌ただしく過ぎ、気付けば夕方で前夜祭突入。

二次会にも至ると酔いなのか疲れなのか続々と夜の闇に消えていく部員達。

幸い、当日は天候にも恵まれ、秋晴れの下、たくさんの珍プレー好プレー、たくさんの歓声とたくさんの笑顔が生まれた素晴らしい大会となりました。

お昼には実行委員長のわがままで作られた豚汁も振舞われ(前宇城大会でも振舞われた伝統です)、やりたいこともやり尽くし閉会を迎えることが出来ました。

本大会は開会まで地震による影響から開催を危惧した時期もありましたが、おかげで私達宇城支部にとって、建築士会としての役割、集う意味を考えさせられる機会となりました。

支部としての結束力も高まり、50周年・100周年へ向け邁進して参ります。宇城大会にご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。ぜひ、また宇城に遊びに来てください。



■宇城支部チーム集合写真

発行：(公社) 熊本県建築士会 編集委員会

藤本国範 堀武治 田尻昭久 田中章友 中島祥貴
村上裕介 松村志磨子 宮本朋子